



朱雀の翼

対話で人とつながる



5月のキーワードは、「対話」です。校外学習や修学旅行、運動会など、仲間と一緒に過ごす時間が増える時期です。人とのかかわり方についてどのようなことに気づいたらよいか、考えてみましょう。このような場面で大切なのが「対話」です。

本校の教育目標達成のために、今年度は4つのキーワードを掲げ、毎月一つずつ取り組んでいきます。5月のキーワードは「対話」です。対話を通じて、仲間と協力し、よい思い出を作りましょう。今日は、対話について3つのポイントをお話しします。

① 対話力を磨く意識を持とう

5月は、コミュニケーションの機会がたくさんあります。クラスメイトや先生、時には地域の方々話すことで、対話力が磨かれます。コミュニケーションにはメリットとデメリットがあります。メリットとしては、まず、相手との信頼関係が築けること。自分の気持ちや考えを伝えることで、相手も心を開いてくれます。次に、新しいアイデアが生まれること。グループでの話し合いでは、異なる視点が集まり、創造的な解決策が見つかることがあります。

一方、デメリットとしては、誤解が生じる可能性があります。言葉や表情が適切でないと、意図が伝わらないことがあります。また、時間がかかることも。意見をまとめるには根気が必要です。だからこそ、相手の話をよく聞き、自分の思いを丁寧に伝える意識をもってください。

② 言葉をツールに、自分の考えを言語化する

対話では、言葉をツールとして使います。自分の考えを言語化することはとても重要です。なぜなら、自分の気持ちを整理できるからです。頭の中にあるモヤモヤした思いを言葉にすることで、何をしたいのか、何が大切なかが明確になります。また、言語化したことを相手に伝えることで、相手との理解が深まります。言語化することで、相手はあなたの考えを正確に捉え、共感や協力が生まれます。さらに、自己表現の自信につながることも。自分の意見をしっかり伝える経験を積むと、どんな場面でも堂々と話せる力が育ちます。校外学習のまとめ、修学旅行や運動会の作戦会

議で、ぜひ自分の考えを言葉にして発信してみてください。そして、聞き手の人は反応してあげましょう。

③ 「あいさつ」は人とつながる魔法の言葉

対話の第一歩は「あいさつ」です。あいさつは、人とつながる魔法の言葉です。まず、相手との距離を縮める効果があります。「おはよう」「こんにちは」の一言で、相手はあなたに心を開きやすくなります。

そして、相手に安心感を与えることができます。明るいあいさつは、相手に「この人は友好的だ」と感じさせ、心地よい雰囲気を作ります。また、自分自身の気持ちを高める効果もあります。あいさつをすることで、自分も前向きな気持ちになり、一日がより楽しくなります。校外学習や運動会では、仲間はもちろん、初めて会う人ともあいさつを交わす場面があるでしょう。その一言が、人とのつながりを生む第一歩になるのです。

対話力を磨き、自分の考えを言葉で伝え、あいさつで人とつながる。この3つを意識して、校外学習や修学旅行、運動会を最高の思い出にしてください。

皆さんの笑顔と対話が、学校をより温かく、活気ある場所にしてくれると信じています。

薬師寺 僧侶による説法

印象に残った一部を紹介します。

しんどい時こそ、面倒な時こそ、顔を上げる
顔を上げれば、顔に光が当たる
顔に光が当たれば、顔は光で白くなる→面白い
見ている世界は変わらない
見ている自分は変わる
楽しめるかどうかは、自分次第
楽しめるチャンスは、いつも目の前にある
チャンスをつかまえるかどうかは、自分次第



修学旅行の学び

公立中学校の修学旅行先に京都や奈良が多いのは、なぜだろうか。

京都や奈良は、日本の歴史と文化の宝庫である。これらの地を訪れることで、修学旅行生たちが、日本の過去と現在をつなぐ架け橋となれるのではないか。

また、急激にグローバル化が進む現代において、中学生一人ひとりが世界に目を向け、未来を切り開く力を養うことも期待できる。まずは、自国の魅力や価値を深く理解するために、日本の歴史、文化、産業、経済、そして伝統や精神性を知り、その素晴らしさを自らの目で見て、肌で感じる事が大切である。

京都駅で、ある男子生徒が、駅ビルのあの高く広い天井を見上げて「すごい」「もう少しゆっくりみたい」と言いながら旅館に急ぎ足で戻っていくのを見て、私はニヤリとした。

28年前「京都は歴史への門である」という発想で京都駅が建て替えられた。初めて見た時も衝撃を受けたが、毎年見るたびに圧倒される。平安京の特徴である碁盤の目を格子やレイアウトに取り入れたそうである。谷に見立てた段丘を東西に延ばし、中央部はガラスと金属でカバーされたアトリウムと壮大な内部空間には、空が映し出され、そのまま空に溶け込んでいくようだった。

3年生たちは、京都の町並みを歩きながら、幕末や明治維新の時代に活躍した偉人たちが、どんな思いで自分たちと同じ地に立っていたのか想像できたのだろうか。

今回の修学旅行は、集団生活の集大成として、今まで培ってきた「集団力」を発揮する機会でもあった。若者には、互いに尊重し合い、規律を守り、安全で居心地の良い社会を築く役割がある。異なる意見や立場の人々と協調し、正しい判断力と歩み寄る力が欠かせない。

日に日に成長ぶりが感じられ、新幹線の車内では思い切り楽しんでいる様子で、東京駅からバスへの移動中は、注意し合ってきたきびきびと歩き、頼もしい「柳沢中の顔」になっていた。おそらく楽しんで、深く学んで、安全な旅であったと言えるのではないか。

あいさつ運動

人のために動こう

社会貢献の気持ちを育てよう

5月12日から16日まであいさつ運動を実施しました。今回は、社会を明るくする運動も兼ねています。地域の方、保護者の方、保谷第二小学校の児童の皆さんと一緒に3か所の門に立ち、あいさつをしました。保谷第二小学校の児童さんは、本校の正門で生徒と一緒にあいさつをし、柳沢中学校の生徒も保谷第二小学校の正門に行きあいさつをしました。

柳沢中学校では、あいさつが飛び交い、元気が出る学校を目指し2ヶ月に1回あいさつ運動を実施しています。挨拶レベルを4段階に分けて自分がどのレベルかを考えたり、学期初めの4月、9月、1月の月間の取組としてあいさつを意識させたりする取組を行っています。

今回のあいさつ運動でボランティアとして活動してくれた生徒は58人でした。生徒会、生活委員会を含めると80人を超える生徒が参加しました。各々の温度差はあるものの、朝早く登校し、自分からあいさつをする生徒が増えてきていることは大変嬉しいことです。あいさつボランティアの募集は、年間を通してではなく、あいさつ運動ごとに募集します。今回のあいさつ運動を受けて、次回ボランティアに立候補してくれる人を増やしたいです。

「授業や委員会、部活動で担当していない先生や来校者、地域の方に挨拶をする」という最高レベル4のあいさつができるように1年間かけて取り組んでいきましょう。

次回のあいさつ運動は、7月8日（火）から11日（金）です。勇気を出して挑戦してみましょう。

